

株式市場で“いま旬の会社”は414社

『会社四季報 2013年3集夏号』で上場会社の時価総額ピーク時を調査

株式会社東洋経済新報社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：山縣裕一郎）は、上場会社全社を対象とし、時価総額の調査を行ったところ、2013年に時価総額がピークを迎えた企業は414社に上り、7年ぶりの高水準であることがわかりました。調査結果の詳細は、6月14日発売の『会社四季報 2013年3集夏号』に掲載します。また、東洋経済オンラインでも一部閲覧いただけます。

<http://toyokeizai.net/articles/-/14214>



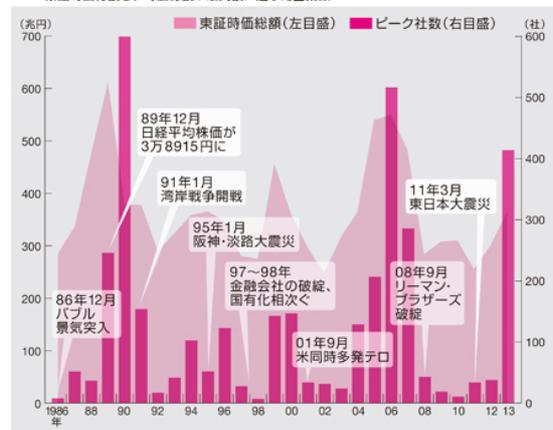
『会社四季報 2013年夏号』

会社四季報編集部では上場会社3550社について、バブル景気が始まった1986年12月から、今年5月27日までの期間を対象として、時価総額がピークをつけた時期、金額を調査しました。本調査から、今年に入って時価総額が最大となった上場会社は414社で、全調査対象のうち11.6%に上ることが判明しました。この水準はバブル真ただ中の1990年の600社、また小泉政権下の構造改革期待で日経平均株価が1万6000円台にあった06年の517社に次ぐものです。

東証33業種別で見ると、医薬品が上場会社59社中の24社と、4割超の企業が今年に入って時価総額を更新しています。中でも目立って飛躍したのがバイオベンチャーです。ノーベル賞受賞でiPS細胞が話題になったことや、安倍内閣の成長戦略の一環として再生医療製品の審査期間の短縮が検討されていることなどが支援材料となったようです。

『会社四季報 2013年3集夏号』では、今年ピークを超えた414社を特集ページにて掲載しているほか、各企業のページで、最大時価総額の達成年月日を掲載しています。

■ 今年ピークを迎えた企業はすでに400社を超える
—東証時価総額と、時価総額が最高額に達した企業数—



■ 医薬品に4割以上の企業が今年ピークに
—2013年に時価総額が最大となった企業の業種別割合—

